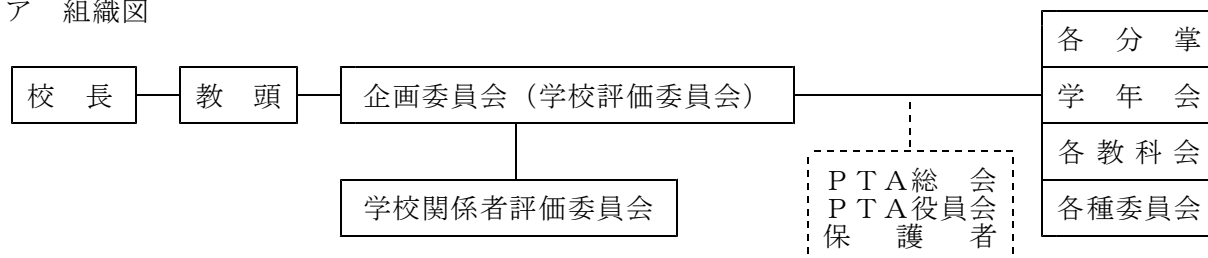


令和元年度の全日制学校評価(自己評価等)

- ・平成31年4月24日(水)の公開授業の時に、学校評議員会を開き今年度の目標等を学校長より説明しました。
- ・令和元年10月21日(月)の授業参観週間の時に、授業を1時間程度参観していただきその後に、学校評議員会を開き、中間報告・意見交換を行いました。
- ・令和元年2月28日(金)の卒業式の後に、学校関係者評価委員会として、3年生のPTA役員の方を交えて、本年度の学校評価(自己評価)・意見交換を行いました。

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

- ア 年度末に当年度の学校評価について総合評価を行うとともに、次年度の課題や重点目標について立案する。
- イ 年度の中間期(10月)に、学校評価委員会で中間評価を行い、当年度の課題や重点目標の達成度について検討する。
- ウ 学校評価について、中間評価や総合評価をPTA役員会やPTA総会において保護者に説明する機会を設ける。
- エ 学校関係者評価委員会を年度末に実施

(3) 令和元年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	ア 牧高生の理想像を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。 イ 教育活動全体を通じて、生徒の主体性、自己肯定感、他者と結び合う心を育てる。 ウ 新教育課程の検討を始めるとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。 エ 個に応じた確かな学力を育てるとともに、多様な学びを記録する方法を確立する。 オ 教育活動の見直しや業務の精選を図り、教職員の多忙化の解消に努める。		
項目(担当)	重点的目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導(教務部) (各教科会) (各学年会)	授業に臨む態度の育成 (学校評価アンケートにおける「先生方は、家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「かなり思う」「そう思う」合わせて70%を越える。) 学習意欲の向上 基礎学力の定着	・授業の準備の定着を図る。 ・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 ・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 ・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 ・計画的な確認テストを実施していくことで、生徒の理解度を把握していく。 ・計画的な課題学習を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させていく。	・学校評価アンケートの結果は、保護者が70%、生徒が79%肯定的な回答であった。 ・始業前に授業準備ができるようになっていく傾向はあるが、始業後に準備する生徒も一部いる。授業担当者の日頃の声掛けでさらなる改善と向上を目指したい。 ・分掌や教科、学年からのガイダンスにより良好な学習習慣が身に付きつつある。しかし、まだまだ至らない点があることや、全員とは言い難い部分があるので、さらなる改善と向上を目指したい。 ・習熟度別授業などは生徒の学力向上に寄与貢献している。また、各教師の創意工夫を凝らした授業内容の展開も生徒の学習意欲の向上につながっている。今後もさらなる改善により、学習意欲の向上や学力向上に努めたい。 ・各教科で計画的な確認テストが実施され、生徒の理解度は把握できている。しかし、向上のための具体的な手だてが乏しく伸ばし切れていない現状がある。今後は具体的手立てを構築し、さらなる学力

	授業力の向上 (学校評価アンケートにおける「先生方はわかりやすい授業を心掛け、工夫をしていると思うか」の回答)	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 	<p>向上を目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間や研究授業等は活発に実施された。その中で、新学習指導要領を見据えた授業改善に取り組むことができた。今後も、授業アンケート等の材料を生かしながら、授業改善を促進し、さらな
--	--	--	---

項目 (担当)	重点的目標	具体的方策	評価結果と課題
	が、「かなり思う。」 「そう思う。」合わせて70%を超える。)		<p>る教師の授業力向上を目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果は、保護者が77%、生徒が81%が肯定的な回答であった。
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	<p>基本的生活習慣の定着</p> <p>規範意識、自己有用感、情報モラルを高める指導。 (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒のインターネット上のルールやマナーについて指導をしていると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を超える。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安易な遅刻・欠席をさせないよう指導する。 家庭との連携を積極的に図る。 声かけや面談を積極的に行うことで、生徒の変化を見逃さず適切な指導を行う。 安心して学べる教育環境の整備として、教務部と連携し、授業規律の確立にともなう指導体制を構築する。 携帯、スマートフォンの校内における使用規定を遵守させる。 情報モラルに関する講話や啓発資料を活用した指導を行う。 地域、警察との連携した指導の機会を設定し規範意識や自己有用感を高める指導を行う 保護者への学校における指導方針の伝達に努め、連携した指導を図る。 生徒の自主的活動(部活動、学校行事等)の場を充実させ、その評価を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で「遅刻防止週間」(6月、10月、11月、1月)の設定実施各学年で実施された。朝の登校指導と、生徒と教員で奉仕活動を生徒と教員で行った。生徒との関わる機会となり、規範意識や自己有用感の醸成につながり、遅刻減少となった。 情報モラルとスマホ等の使用マナー指導において、マナーが良くない場合は声掛けのための巡回指導を行った。小牧高校スマホPC使用ガイドラインを、保護者会等で配布。学校・家庭において、情報モラル教育を推進した。SNS上でのトラブルに注視していきたい。 インターネット利用安全・安心講座〔1年生対象6月に実施〕効果的である。来年度はより早い時期に実施する。 交通安全講話指導 各学年で教員が実施することで生徒の現状に則した指導となった。 「0の日」交通安全指導(15回)早朝から教員で分担して実施。 合羽着用指導・登校指導 朝の登校指導や交通安全・防犯にもつながっている。ほとんどの生徒が合羽の着用ができています。 身だしなみ指導。 帰属・規範意識の醸成 学校評価アンケートの結果は、保護者が79%、生徒が75%が肯定的な回答であった。
進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	<p>3年間を見通した進路指導の推進 (学校評価アンケートにおける「先生方は必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を超える。)</p> <p>生徒の進路希望実現に向けての有効なサポートの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望状況・推移を十分に把握する。 教科・学年との情報を共有し、継続性のある指導を展開する。 生徒・保護者に対して適時に進路関連情報を提供する。 教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。 入学試験や就職活動・ 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望状況を定期的に把握し、進路指導に生かした。 高大接続改革、新制度入試に向けての情報を収集し、適切に対処した。刷新した「進路のしおり」や、各ガイダンスによって、的確な情報を生徒、保護者に提示してきた。 次年度以降も、このような指導を継続していきたい。 学校評価アンケートの結果は、保護者が77%、生徒が80%が肯定的な回答であった。 模擬試験や入学試験の各種データを教員、生徒、保護者にわかりやすく提供した。 進学・就職指導を計画通り実施してきた。また補習や模擬試験を適

		試験に向けたきめの細かい指導を行う。	切に運営してきた。 ・学年・教科との連携をさらに深めて、より適切な進路指導を進めていきたい。
学校安全・保健 (生徒指導部) (保健厚生部)	健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る	・あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さ	・学校評価アンケートの結果は、保護者が77%、生徒が70%が肯定的な回答であった。
項目(担当)	重点的目標	具体的方策	評価結果と課題
	の啓発活動を行う(学校評価アンケートにおける「先生方は生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っていると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を越える。)	・保健日よりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。	・保健日よりや廊下の掲示物などを利用して、健康に関する知識の向上を図った。 ・保健厚生委員の活動を通して、睡眠についての生活習慣改善の啓発活動を行った。 ・夏季休業中の平日は、1日に複数回熱中症指数を測定し、注意喚起をすることで、熱中症の予防に努めた。8月、9月を通して熱中症の重大な事例は無かった。
保護者連携 地域連携 (総務部)	家庭や地域社会との連携を図る(学校評価アンケートにおける「先生方はPTA行事に積極的に保護者に参加してもらえるように内容を工夫していると思うか」の回答が、「思う。」「少し思う。」合わせて70%を越える。)	・学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 ・学校のHPの更新を随時行い、情報発信に努める。	・学校評価アンケートの回答が、「思う。」「少し思う。」を合わせてH30年度の73%からR元年度は63%に低下した。詳しく見ると「少し思う。」が54%から43%、「あまり思わない。」が25%から32%となっている。アンケートの対象をPTA役員、委員から全保護者に拡大したこともあるが、工夫が不十分という評価と受け止める。これまでの取り組みに加え、今後どのような工夫をすれば保護者の評価を高めることができるかを考えていきたい。
学校行事 (生徒会)	学校祭の充実を図る(学校評価アンケートにおける「先生方は生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を越える。)	・各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。	・体育祭は今年度より縦割り群団制に変更したこともあり、学校評価アンケートにおける「先生方は生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて74%であり、目標は概ね達成できた。体育祭における暑さ対策は重要な課題であり、次年度に向けて対策を講じていきたい。
図書館利用 (図書部)	図書館利用の充実を図る(学校評価アンケートにおける「先生方は魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を越える。)	・図書館行事や新着図書一覧の作成などPR活動のより一層の充実を図る。	・図書館利用者を少しでも増やすため、毎月、新着本の紹介をするポスターや掲示板を用意した。読書会やPOPの作成など委員会活動を充実させ、一定の成果を得ることができた。また、読書週間には第1学年と協力して、先生方のお勧め本を掲示し、一部の図書を学年の廊下でそのまま借りられるように、コーナーを設けた。次年度についても、学年と協力していける方策を探っていきたい。 ・学校評価アンケートの結果は、保護者が54%、生徒が60%が肯定的な回答であった。
いじめ・不登校対策委員会	いじめの未然防止に係わる取り組みの充実	・朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒	・いじめ不登校対策委員会の取組については充実している。とくにアンケート後の対応はきめ細かくなされており、問題の早期対応につ

	いじめの早期発見、適切な事案対処	<p>がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校生活に関するアンケート」(年2回実施)の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。 	<p>ながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段の教育活動(部活動、質問会、相談)において、多く教員が生徒と関わっている。それにより明るい表情で登校してくる生徒が多い。 いじめ不登校の「未然防止」を来年度も重視し、「関わり」(教員との、又は生徒同士の)を更に増やしていくことや、「わかる授業」を目指し、不登校の未然防止を図りたい。
教職員の健康管理	勤務時間の適正管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の在校時間状況記録の結果の活用 ストレスチェックの結果の有効的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 1月時点で80時間越えの先生は、延べ31名(同時期昨年度40名)であった。月により差があるが、平準化できるよう、学校行事の見直しを進めていきたい。
総合評価	<p>学校全体としては、落ち着いた学習環境が充実してきていると考えられる。しかし、学校に対する不適応や問題を抱える生徒の数は、増加してきている。早期発見・早期対応が重症化の防止になるため、さらなる教育相談体制の見直しや、地道な生徒面談を行うことを継続していく必要がある。</p> <p>多くの生徒は授業態度、課題の提出状況は向上しているが、基礎学力の定着がまだ不十分であり、今後も日常的な粘り強い指導を継続するとともに、興味・関心が湧く授業改善や主体的・対話的な深い学びができるような授業改善に各教科取り組んでいく。また、令和4年度から始まる学習指導要領の実施に向けて、令和2年度の1学期には、教育課程表を完成させ、各教科の指導力を、個の力としてだけでなく、学校の教科力として高められるよう、教科内での研修の充実を図っていく。更に、学校の様々な教育活動が、進路意識を高め、生涯学習をし続ける意欲を喚起し、生徒の成長を促す方策を更に研究しながら、実践をすすめていく。</p>		

令和元年度の定時制学校評価(自己評価等)

(1) 令和元年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	<p>(ア) 牧高生の理想像を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。</p> <p>(イ) 教育活動全体を通じて、生徒の主体性、自己肯定感、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>(ウ) 新教育課程の検討を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。</p> <p>(エ) 個に応じた確かな学力を育てるとともに、多様な学びを記録する方法を確立する。</p> <p>(オ) 教育活動の見直しや業務の精選を図り、教職員の多忙化の解消に努める。</p>		
項目(担当)	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (教務部) (各教科)	多様な生徒への対応と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の生徒への対応の充実 外国人生徒への対応の一層の充実 基礎学力が不足した生徒への対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校カウンセラーや外部機関との情報交換の機会が増加した。 生徒の日本語の力がさまざまで、複数言語支援員の入り込みの授業をおこなった。 ○基礎学力の育成を新教育課程への対応を見据えて主体的・対話的な授業の中で身に付ける工夫を全教科で研究する必要がある。
	特別活動等による「在り方生き方教育」の展開	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究(学習)への対応など、具体的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や学校行事など、機会をとらえてタイムリーな話題を扱うことができた。 ○メモから感想を記述させたが、そこから生徒の理解につなげる工夫が課題である。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者・早退者への指導の充実 欠席過多者への指 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連絡を密にして遅刻は減った。 ・アルバイトや家事手伝いなどの理由で、欠席が増加する傾向がみられた。

(生徒指導部)		導の充実	○家庭にも早期から高等学校の出席の重要性について十分理解してもらう必要がある。
	生徒情報の精選と共有化	・定期的情報交換会の開催	・個人面談、保護者会を充実させた。 ・随時、情報交換会を実施できた。 ○巡回学校カウンセラーとの連携が課題。
	交通安全指導の充実	・交通安全講話の実施 ・下校指導の実施	・毎日の登下校指導で自転車の点灯やマナーの声掛けが効果をあげた。 ○外部講師の講話の導入など工夫が必要。
	いじめに対する措置	・いじめ防止講話の実施	・県方針に基づく組織的な対応ができた。 ○身近なメールなどの事例も組込みたい。
進路指導 (進路指導部)	進路意識の向上及び進路学習の充実	・進路講演会 ・進路情報の提供 ・面接指導	・個別指導により希望者は正規採用となった。 ・県の就労アドバイザーの就任により、面接指導の充実が実現した。 ○卒業生の追跡情報の共有や進路未定者のための4年間の進路指導計画を作成したい。
保健指導 (保健厚生部)	健康の増進と食中毒の予防及び相談活動の充実	・健康診断の円滑な実施と治療勧告・学校カウンセラーの効率的な活用	・養護教諭を中心に保護者会なども利用して家庭・職場との連絡を密にできた。 ○定期発行の保健だよりの充実を検討したい。
	環境教育の充実	・節電、省エネを通じた環境意識の高揚	・「地球といのちの環境教育」等を通じて、関心が高まった。 ○「保健」などの授業との連携を模索したい。
	健康障害防止の取組	・勤務時間の適正な管理	・全職員の月ごとの勤務時間の実態把握、記録をとることができた。 ○定時制では著しい過多者はおらず、引き続き業務役割分担の適正化を試みたい。